

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3865032号

(P3865032)

(45) 発行日 平成19年1月10日(2007. 1. 10)

(24) 登録日 平成18年10月13日(2006. 10. 13)

(51) Int. Cl.		F I	
A 6 1 K	8/37	(2006. 01)	A 6 1 K 8/37
A 6 1 K	8/19	(2006. 01)	A 6 1 K 8/19
A 6 1 Q	1/08	(2006. 01)	A 6 1 Q 1/08

請求項の数 1 (全 17 頁)

(21) 出願番号	特願2000-17437 (P2000-17437)	(73) 特許権者	000001959 株式会社資生堂
(22) 出願日	平成12年1月26日(2000. 1. 26)		東京都中央区銀座7丁目5番5号
(65) 公開番号	特開2001-206812 (P2001-206812A)	(74) 代理人	100094570 弁理士 ▲高▼野 俊彦
(43) 公開日	平成13年7月31日(2001. 7. 31)	(72) 発明者	大森 隆司 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂 第一リサーチセンター 内
審査請求日	平成16年6月21日(2004. 6. 21)	(72) 発明者	宮原 令二 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂 第一リサーチセンター 内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 メーキャップ化粧料

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

コハク酸ジエトキシエチルと窒化ホウ素粉末とを含有することを特徴とするメーキャップ化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はメーキャップ化粧料に関する。さらに詳しくは、化粧料塗布時の使用感触に優れており、さらに化粧もちに優れ、かつ衣服等への二次付着性が改善されたメーキャップ化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】

メーキャップ化粧料には、より美しく見せる「美的役割」の他に、化粧もち、二次付着防止といった「機能性」や、心地よさを与える「感覚的役割」を担っている。

【0003】

「機能性」を充実させるためには、一般にシリコン化合物を配合することが知られているが、塗布時のべたつき、キシミ感、滑沢性の低下といった「感覚的役割」を損なう傾向にあった。

【0004】

また、「感覚的役割」を果たすためには、一般に球状粉末を配合して滑沢性を向上させ、

マイカ、タルク、カオリンといった板状粉末の配合により密着性を高めてきた。しかしながら、球状粉末を多量配合すると肌への密着性が低下したり、また粉末をプレスした際の成型性が悪くなるといった欠点があった。

【0005】

さらに、マイカ、タルク、カオリンといった板状粉末を多量配合すると滑沢性が低下したり、粉末表面の触媒活性により、香料、オイルの劣化を発生させて変臭の原因になる等の問題があった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

このようにメーキャップ化粧料において、満足できる使用感触の付与と優れた化粧もち効果、さらには二次付着防止効果を同時に併せ持つことは非常に困難であり、この2つの特性を同時に有するメーキャップ化粧料が求められている。

10

【0007】

本発明者等は上述の課題に鑑み鋭意研究した結果、メーキャップ化粧料にコハク酸ジエトキシエチルと窒化ホウ素粉末とを配合すると、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果に優れたメーキャップ化粧料が得られることを見出し本発明を完成するに至った。

【0008】

本発明の目的はこの十分に満足できる使用感触の付与と優れた化粧もち効果、さらには二次付着防止効果に優れたメーキャップ化粧料を提供することにある。

【0009】

20

【課題を解決するための手段】

すなわち、本発明は、コハク酸ジエトキシエチルと窒化ホウ素粉末とを含有することを特徴とするメーキャップ化粧料を提供するものである。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の構成について詳述する。

【0015】

本発明においてコハク酸ジエトキシエチルを用いると、特に使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果に優れたメーキャップ化粧料が得られる。

【0016】

30

コハク酸ジエトキシエチルの配合量は特に限定しないが、好ましくはメーキャップ化粧料全量中0.001~20.0重量%、更に好ましくは0.1~10.0重量%である。0.001重量%未満ではその効果が発揮されず、20.0重量%を越えると使用後、べたつきを感じるようになってくる。

【0017】

本発明に用いる窒化ホウ素粉末は化粧料原料として通常使用されている窒化ホウ素粉末であり、一般に以下のような方法で合成される粉末である。

(1) ホウ素を窒素気流中1500 程度で焼成する。

(2) アンモニアと酸化ホウ素、塩化アンモニウムとホウ砂、またはホウ酸と尿素とを800~1600 程度で焼成する。

40

結晶構造には六方晶形・ウルツ鉱形・菱面体形・立方晶形等があり、立方晶形・ウルツ鉱形は主として研磨剤として利用され、六方晶形は潤滑剤に用いられている。また菱面体形は特殊な製造法でのみ合成される。このうち六方晶形の窒化ホウ素は、合成が容易であり粉碎等による整粒処理も簡便に行うことができ、化粧料に配合した場合の使用感触に最も優れるため好ましい。

【0018】

本発明に用いられる窒化ホウ素粉末は、上記の如き結晶構造を有する粉末を低級アルコールやアセトン等の水可溶性有機溶媒またはその水溶液、あるいは界面活性剤水溶液中で攪拌洗浄し、低温下(60 以下が望ましい)・低酸素雰囲気下(窒素気流下または真空中)で乾燥して得る。このようにして得られた窒化ホウ素粉末はそのまま化粧料に配合しても

50

良いし、高級脂肪酸や油脂、ロウ、シリコン化合物、フッ素化合物、炭化水素、界面活性剤、デキストリン脂肪酸エステル等の物質による表面処理を行ってもよい。

【0019】

窒化ホウ素粉末の平均粒径は特に限定されないが、球状換算平均粒径で、0.1~30 μ が好ましい。0.1 μ より小さい場合は滑沢性が損なわれ、30 μ より大きいとザラツキを感じて好ましくない。

【0020】

窒化ホウ素の配合量は目的とする製品に応じてメーカー化粧料中0.1~99重量%という広範囲で選択され得る。0.1重量%以下の場合上記した効果が十分に得られず好ましくない。

10

【0021】

本発明のメーカー化粧料には上記した必須構成成分の他に通常化粧料に用いられる他の成分、例えば、粉末成分、液体油脂、固体油脂、ロウ、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、エステル、シリコン、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、非イオン界面活性剤、保湿剤、水溶性高分子、増粘剤、皮膜剤、紫外線吸収剤、金属イオン封鎖剤、低級アルコール、多価アルコール、糖、アミノ酸、有機アミン、高分子エマルジョン、pH調製剤、皮膚栄養剤、ビタミン、酸化防止剤、酸化防止助剤、香料、水等を必要に応じて適宜配合し、目的とする剤形に応じて常法により製造することが出来る。以下に具体的な配合可能成分を列挙するが、上記必須配合成分と、下記成分の一種または二種以上とを配合して本発明のメーカー化粧料を調整できる。

20

【0022】

粉末成分としては、例えば、無機粉末（例えば、タルク、カオリン、雲母、絹雲母(セリサイト)、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、パーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム(焼セッコウ)、リン酸カルシウム、弗素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、金属石鹸(例えば、ミリスチン酸亜鉛、パルミチン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム)、窒化ホウ素等)；有機粉末(例えば、ポリアミド樹脂粉末(ナイロン粉末)、ポリエチレン粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四弗化エチレン粉末、セルロース粉末等)；無機白色顔料(例えば、二酸化チタン、酸化亜鉛等)；無機赤色系顔料(例えば、酸化鉄(ベンガラ)、チタン酸鉄等)；無機褐色系顔料(例えば、酸化鉄等)；無機黄色系顔料(例えば、黄酸化鉄、黄土等)；無機黒色系顔料(例えば、黒酸化鉄、低次酸化チタン等)；無機紫色系顔料(例えば、マンゴバイオレット、コバルトバイオレット等)；無機緑色系顔料(例えば、酸化クロム、水酸化クロム、チタン酸コバルト等)；無機青色系顔料(例えば、群青、紺青等)；パール顔料(例えば、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビスマス、酸化チタンコーテッドタルク、着色酸化チタンコーテッドマイカ、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等)；金属粉末顔料(例えば、アルミニウムパウダー、銅パウダー等)；ジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料(

30

40

【0023】

液体油脂としては、例えば、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、ナタネ油、卵黄油、ゴマ油、パーシク油、小麦胚芽油、サザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、

50

落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン等が挙げられる。

【0024】

固体油脂としては、例えば、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、パーム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、パーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等が挙げられる。

【0025】

ロウとしては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カボックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等が挙げられる。

10

【0026】

炭化水素としては、例えば、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、プリスタン、パラフィン、セレシン、スクワレン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等が挙げられる。

【0027】

高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、ウンデシレン酸、トール酸、イソステアリン酸、リノール酸、リノレイン酸、エイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)等が挙げられる。

20

【0028】

高級アルコールとしては、例えば、直鎖アルコール(例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、セトステアリルアルコール等);分枝鎖アルコール(例えば、モノステアリルグリセリンエーテル(パチルアルコール)、2-デシルテトラデシノール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、ヘキシルドデカノール、イソステアリルアルコール、オクチルドデカノール等)等が挙げられる。

30

【0029】

合成エステル油としては、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸デシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリエステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、トリオクタン酸グリセリン、トリエソパルミチン酸グリセリン、トリエステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、トリミリスチン酸グリセリン、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、オレイン酸オレイル、アセトグリセライド、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、アジピン酸ジイソブチル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、エチルラウレート、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、セバシン酸ジイソプロピル、コハク酸2-エチルヘキシル、クエン酸トリエチル等が挙げられる。

40

50

【0030】

シリコーンとしては、例えば、鎖状ポリシロキサン（例えば、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ジフェニルポリシロキサン等）；環状ポリシロキサン（例えば、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン等）、3次元網目構造を形成しているシリコーン樹脂、シリコーンゴム、各種変性ポリシロキサン（アミノ変性ポリシロキサン、ポリエーテル変性ポリシロキサン、アルキル変性ポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等）等が挙げられる。

【0031】

アニオン界面活性剤としては、例えば、脂肪酸セッケン（例えば、ラウリン酸ナトリウム、10
 パルミチン酸ナトリウム等）；高級アルキル硫酸エステル塩（例えば、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸カリウム等）；アルキルエーテル硫酸エステル塩（例えば、POE-ラウリル硫酸トリエタノールアミン、POE-ラウリル硫酸ナトリウム等）；N-アシルサルコシン酸（例えば、ラウロイルサルコシナトリウム等）；高級脂肪酸アミドスルホン酸塩（例えば、N-ミリストイル-N-メチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリッドナトリウム、ラウリルメチルタウリッドナトリウム等）；リン酸エステル塩（POE-オレイルエーテルリン酸ナトリウム、POE-ステアリルエーテルリン酸等）；スルホコハク酸塩（例えば、ジ-2-エチルヘキシルスルホコハク酸ナトリウム、モノラウロイルモノエタノールアミドポリオキシエチレンスルホコハク酸ナトリウム、ラウリルポリプロピレングリコールスルホコハク酸ナトリウム等）；アルキルベンゼンスルホン酸塩（例えば、リニアドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、リニアドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン、リニアドデシルベンゼンスルホン酸等）；高級脂肪酸エステル硫酸エステル塩（例えば、硬化ヤシ油脂肪酸グリセリン硫酸ナトリウム等）；N-アシルグルタミン酸塩（例えば、N-ラウロイルグルタミン酸モノナトリウム、N-ステアロイルグルタミン酸ジナトリウム、N-ミリストイル-L-グルタミン酸モノナトリウム等）；硫酸化油（例えば、ロート油等）；POE-アルキルエーテルカルボン酸；POE-アルキルアリルエーテルカルボン酸塩；-オレフィンスルホン酸塩；高級脂肪酸エステルスルホン酸塩；二級アルコール硫酸エステル塩；高級脂肪酸アルキロールアミド硫酸エステル塩；ラウロイルモノエタノールアミドコハク酸ナトリウム；N-パルミトイルアスパラギン酸ジトリエタノールアミン；カゼインナトリウム等が挙げられる。 20
 30

【0032】

カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルトリメチルアンモニウム塩（例えば、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム等）；アルキルピリジニウム塩（例えば、塩化セチルピリジニウム等）；塩化ジステアリルジメチルアンモニウムジアルキルジメチルアンモニウム塩；塩化ポリ(N,N'-ジメチル-3,5-メチレンピペリジニウム)；アルキル四級アンモニウム塩；アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩；アルキルイソキノリニウム塩；ジアルキルモリホニウム塩；POE-アルキルアミン；アルキルアミン塩；ポリアミン脂肪酸誘導体；アミルアルコール脂肪酸誘導体；塩化ベンザルコニウム；塩化ベンゼトニウム等が挙げられる。

【0033】

両性界面活性剤としては、例えば、イミダゾリン系両性界面活性剤（例えば、2-ウンデシル-N,N,N-(ヒドロキシエチルカルボキシメチル)-2-イミダゾリナトリウム、2-ココイル-2-イミダゾリニウムヒドロキサイド-1-カルボキシエチロキシ2ナトリウム塩等）；ベタイン系界面活性剤（例えば、2-ヘプタデシル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等）等が挙げられる。 40

【0034】

親油性非イオン界面活性剤としては、例えば、ソルビタン脂肪酸エステル類（例えば、ソルビタンモノオレート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエ 50

ート、ソルビタントリオレート、ペンタ-2-エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン、テトラ-2-エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等)；グリセリンポリグリセリン脂肪酸類(例えば、モノ綿実油脂肪酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリン、セスキオレイン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリン、 α -オレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等)；プロピレングリコール脂肪酸エステル類(例えば、モノステアリン酸プロピレングリコール等)；硬化ヒマシ油誘導体；グリセリンアルキルエーテル等が挙げられる。

【0035】

親水性非イオン界面活性剤としては、例えば、POE-ソルビタン脂肪酸エステル類(例えば、POE-ソルビタンモノオレート、POE-ソルビタンモノステアレート、POE-ソルビタンモノオレート、POE-ソルビタンテトラオレート等)；POEソルビット脂肪酸エステル類(例えば、POE-ソルビットモノラウレート、POE-ソルビットモノオレート、POE-ソルビットペンタオレート、POE-ソルビットモノステアレート等)；POE-グリセリン脂肪酸エステル類(例えば、POE-グリセリンモノステアレート、POE-グリセリンモノイソステアレート、POE-グリセリントリイソステアレート等のPOE-モノオレート等)；POE-脂肪酸エステル類(例えば、POE-ジステアレート、POE-モノジオレート、ジステアリン酸エチレングリコール等)；POE-アルキルエーテル類(例えば、POE-ラウリルエーテル、POE-オレイルエーテル、POE-ステアリルエーテル、POE-ベヘニルエーテル、POE-2-オクチルドデシルエーテル、POE-コレスタノールエーテル等)；ブルロニック型類(例えば、ブルロニック等)；POE・POP-アルキルエーテル類(例えば、POE・POP-セチルエーテル、POE・POP-2-デシルテトラデシルエーテル、POE・POP-モノブチルエーテル、POE・POP-水添ラノリン、POE・POP-グリセリンエーテル等)；テトラPOE・テトラPOP-エチレンジアミン縮合物類(例えば、テトロニック等)；POE-ヒマシ油硬化ヒマシ油誘導体(例えば、POE-ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油モノイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油トリイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油モノピログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、POE-硬化ヒマシ油マレイン酸等)；POE-ミツロウ・ラノリン誘導体(例えば、POE-ソルビットミツロウ等)；アルカノールアミド(例えば、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸モノエタノールアミド、脂肪酸イソプロパノールアミド等)；POE-プロピレングリコール脂肪酸エステル；POE-アルキルアミン；POE-脂肪酸アミド；ショ糖脂肪酸エステル；アルキルエトキシジメチルアミンオキシド；トリオレイルリン酸等が挙げられる。

【0036】

保湿剤としては、例えば、ポリエチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、キシリトール、ソルビトール、マルチトール、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸、ムコイチン硫酸、カロニン酸、アテロコラーゲン、コレステリル-12-ヒドロキシステアレート、乳酸ナトリウム、胆汁酸塩、dl-ピロリドンカルボン酸塩、短鎖可溶性コラーゲン、ジグリセリン(E0)PO付加物、イザヨイバラ抽出物、セイヨウノコギリソウ抽出物、メリロート抽出物等が挙げられる。

【0037】

天然の水溶性高分子としては、例えば、植物系高分子(例えば、アラビアガム、トラガカントガム、ガラクトマンナン、グアガム、キャロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインシード(マルメロ)、アルゲコロイド(カッソウエキス)、デンプン(コメ、トウモロコシ、パレイショ、コムギ)、グリチルリチン酸)；微生物系高分子(例えば、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン等)；動物系高分子(例えば、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等)等が挙げられる。

【0038】

半合成の水溶性高分子としては、例えば、デンプン系高分子(例えば、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等)；セルロース系高分子(メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末等

10

20

30

40

50

); アルギン酸系高分子 (例えば、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等) 等が挙げられる。

【0039】

合成の水溶性高分子としては、例えば、ビニル系高分子 (例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー等); ポリオキシエチレン系高分子 (例えば、ポリエチレングリコール20,000、40,000、60,000のポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体等); アクリル系高分子 (例えば、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリルアミド等); ポリエチレンイミン; カチオンポリマー等が挙げられる。

【0040】

増粘剤としては、例えば、アラビアガム、カラギーナン、カラヤガム、トラガカントガム、キャロブガム、クインシード (マルメロ)、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン酸ナトリウム、アラギン酸ナトリウム、メチルセルロース、エチルセルロース、CMC、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、PVA、PVM、PVP、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ローカストビーンガム、グアーガム、タマリントガム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、キサンタンガム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ベントナイト、ヘクトライト、ケイ酸A1Mg (ピーガム)、ラポナイト、無水ケイ酸等が挙げられる。

【0041】

紫外線吸収剤としては、例えば、安息香酸系紫外線吸収剤 (例えば、パラアミノ安息香酸 (以下、PABAと略す)、PABAモノグリセリンエステル、N,N-ジプロポキシPABAエチルエステル、N,N-ジエトキシPABAエチルエステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル、N,N-ジメチルPABAブチルエステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル等); アントラニル酸系紫外線吸収剤 (例えば、ホモメンチル-N-アセチルアントラニレート等); サリチル酸系紫外線吸収剤 (例えば、アミルサリシレート、メンチルサリシレート、ホモメンチルサリシレート、オクチルサリシレート、フェニルサリシレート、ベンジルサリシレート、p-イソプロパノールフェニルサリシレート等); 桂皮酸系紫外線吸収剤 (例えば、オクチルシンナメート、エチル-4-イソプロピルシンナメート、メチル-2,5-ジイソプロピルシンナメート、エチル-2,4-ジイソプロピルシンナメート、メチル-2,4-ジイソプロピルシンナメート、プロピル-p-メトキシシンナメート、イソプロピル-p-メトキシシンナメート、イソアミル-p-メトキシシンナメート、オクチル-p-メトキシシンナメート (2-エチルヘキシル-p-メトキシシンナメート)、2-エトキシエチル-p-メトキシシンナメート、シクロヘキシル-p-メトキシシンナメート、エチル-シアノ-フェニルシンナメート、2-エチルヘキシル-シアノ-フェニルシンナメート、グリセリルモノ-2-エチルヘキサノイル-ジパラメトキシシンナメート等); ベンゾフェノン系紫外線吸収剤 (例えば、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシ-4'-メチルベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸塩、4-フェニルベンゾフェノン、2-エチルヘキシル-4'-フェニル-ベンゾフェノン-2-カルボキシレート、2-ヒドロキシ-4-n-オクトキシベンゾフェノン、4-ヒドロキシ-3-カルボキシベンゾフェノン等); 3-(4'-メチルベンジリデン)-d,l-カンファー、3-ベンジリデン-d,l-カンファー; 2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール; 2,2'-ヒドロキシ-5-メチルフェニルベンゾトリアゾール; 2-(2'-ヒドロキシ-5'-t-オクチルフェニル)ベンゾトリアゾール; 2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール; ジベンザラジン; ジアニソイルメタン; 4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン; 5-(3,3-ジメチル-2-ノルボルニリデン)-3-ペンタン-2-オン等が挙げられる。

【0042】

金属イオン封鎖剤としては、例えば、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸四ナトリウム塩、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三

10

20

30

40

50

ナトリウム、エデト酸四ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、コハク酸、エデト酸、エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸3ナトリウム等が挙げられる。

【0043】

低級アルコールとしては、例えば、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、イソブチルアルコール、t-ブチルアルコール等が挙げられる。

【0044】

多価アルコールとしては、例えば、2価のアルコール（例えば、エチレングリコール、プロピレングリコール、トリメチレングリコール、1,2-ブチレングリコール、1,3-ブチレングリコール、テトラメチレングリコール、2,3-ブチレングリコール、ペンタメチレングリ
10
コール、2-ブテン-1,4-ジオール、ヘキシレングリコール、オクチレングリコール等）；
3価のアルコール（例えば、グリセリン、トリメチロールプロパン等）；4価アルコール
（例えば、1,2,6-ヘキサントリオール等のペンタエリスリトール等）；5価アルコール（
例えば、キシリトール等）；6価アルコール（例えば、ソルビトール、マンニトール等）
；多価アルコール重合体（例えば、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、ト
リエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、テトラエチレングリコール、ジグリ
セリン、ポリエチレングリコール、トリグリセリン、テトラグリセリン、ポリグリセリン
等）；2価のアルコールアルキルエーテル類（例えば、エチレングリコールモノメチルエ
ーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテ
ル、エチレングリコールモノフェニルエーテル、エチレングリコールモノヘキシルエーテ
20
ル、エチレングリコールモノ2-メチルヘキシルエーテル、エチレングリコールイソアミル
エーテル、エチレングリコールベンジルエーテル、エチレングリコールイソプロピルエ
ーテル、エチレングリコールジメチルエーテル、エチレングリコールジエチルエーテル、エ
チレングリコールジブチルエーテル等）；2価アルコールアルキルエーテル類（例えば、
ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、
ジエチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、ジ
エチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールブチルエーテル、ジエチ
レングリコールメチルエチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリ
エチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プ
ロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノブチルエーテル、プ
30
ロピレングリコールイソプロピルエーテル、ジプロピレングリコールメチルエーテル、ジ
プロピレングリコールエチルエーテル、ジプロピレングリコールブチルエーテル等）；2
価アルコールエーテルエステル（例えば、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテ
ート、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノブチ
ルエーテルアセテート、エチレングリコールモノフェニルエーテルアセテート、エチレン
グリコールジアジベート、エチレングリコールジサクシネート、ジエチレングリコールモ
ノエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、プ
ロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエ
ーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテルアセテート、プロピレン
グリコールモノフェニルエーテルアセテート等）；グリセリンモノアルキルエーテル（例
40
えば、キシルアルコール、セラキルアルコール、パチルアルコール等）；糖アルコール（
例えば、ソルビトール、マルチトール、マルトトリオース、マンニトール、ショ糖、エリ
トリトール、グルコース、フルクトース、デンブun分解糖、マルトース、キシリトース、
デンブun分解糖還元アルコール等）；グリソリッド；テトラヒドロフルフリルアルコー
ル；POE-テトラヒドロフルフリルアルアルコール；POP-ブチルエーテル；POP・POE-ブチル
エーテル；トリポリオキシプロピレングリセリンエーテル；POP-グリセリンエーテル；PO
P-グリセリンエーテルリン酸；POP・POE-ペンタンエリスリトールエーテル、ポリグリセ
リン等が挙げられる。

【0045】

単糖としては、例えば、三炭糖（例えば、D-グリセリルアルデヒド、ジヒドロキシアセト
50

ン等)；四炭糖(例えば、D-エリトロース、D-エリトルロース、D-トレオース、エリスリトール等)；五炭糖(例えば、L-アラビノース、D-キシロース、L-リキソース、D-アラビノース、D-リボース、D-リブロース、D-キシルロース、L-キシルロース等)；六炭糖(例えば、D-グルコース、D-タロース、D-ブシコース、D-ガラクトース、D-フルクトース、L-ガラクトース、L-マンノース、D-タガトース等)；七炭糖(例えば、アルドヘプトース、ヘプロース等)；八炭糖(例えば、オクツロース等)；デオキシ糖(例えば、2-デオキシ-D-リボース、6-デオキシ-L-ガラクトース、6-デオキシ-L-マンノース等)；アミノ糖(例えば、D-グルコサミン、D-ガラクトサミン、シアル酸、アミノウロン酸、ムラミン酸等)；ウロン酸(例えば、D-グルクロン酸、D-マンヌロン酸、L-グルロン酸、D-ガラクトン酸、L-イズロン酸等)等が挙げられる。

10

【0046】

オリゴ糖としては、例えば、ショ糖、グンチアノース、ウンベリフェロース、ラクトース、プランテオース、イソリクノース類、 α -D-トレハロース、ラフィノース、リクノース類、ウンピリシン、スタキオースベルバスコース類等が挙げられる。

【0047】

多糖としては、例えば、セルロース、クインシード、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクトタン、デルマタン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、ローカストピンガム、サクシノグルカン、カロニン酸等が挙げられる。

20

【0048】

アミノ酸としては、例えば、中性アミノ酸(例えば、スレオニン、システイン等)；塩基性アミノ酸(例えば、ヒドロキシリジン等)等が挙げられる。また、アミノ酸誘導体として、例えば、アシルサルコシンナトリウム(ラウロイルサルコシンナトリウム)、アシルグルタミン酸塩、アシル γ -アラニンナトリウム、グルタチオン、ピロリドンカルボン酸等が挙げられる。

【0049】

有機アミンとしては、例えば、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、モルホリン、トリエソプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール等が挙げられる。

30

【0050】

高分子エマルジョンとしては、例えば、アクリル樹脂エマルジョン、ポリアクリル酸エチルエマルジョン、アクリルレジン液、ポリアクリルアルキルエステルエマルジョン、ポリ酢酸ビニル樹脂エマルジョン、天然ゴムラテックス等が挙げられる。

【0051】

pH調製剤としては、例えば、乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム、コハク酸-コハク酸ナトリウム等の緩衝剤等が挙げられる。

【0052】

ビタミンとしては、例えば、ビタミンA、B1、B2、B6、C、Eおよびその誘導体、パントテン酸およびその誘導体、ビオチン等が挙げられる。

40

【0053】

酸化防止剤としては、例えば、トコフェロール類、ジブチルヒドロキシルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類等が挙げられる。

【0054】

酸化防止助剤としては、例えば、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォスフェイト、フィチン酸、エチレンジアミン四酢酸等が挙げられる。

【0055】

その他の配合可能成分としては、例えば、防腐剤(エチルパラベン、ブチルパラベン等)；消炎剤(例えば、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導

50

体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等)；美白剤(例えば、胎盤抽出物、ユキノシタ抽出物、アルブチン等)；各種抽出物(例えば、オウバク、オウレン、シコン、シクヤク、センブリ、パーチ、セージ、ピワ、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ、サフラン、センキュウ、ショウキュウ、オトギリソウ、オノニス、ニンニク、トウガラシ、チンピ、トウキ、海藻等)、賦活剤(例えば、ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体等)；血行促進剤(例えば、ノニル酸ワレニルアミド、ニコチン酸ベンジルエステル、ニコチン酸 - ブトキシエチルエステル、カプサイシン、ジンゲロン、カンタリスチンキ、イクタモール、タンニン酸、 - ボルネオール、ニコチン酸トコフェロール、イノシトールヘキサニコチネート、シクランデレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ベラパミル、セファランチン、 - オリザノール等)；抗脂漏剤(例えば、硫黄、チアントール等)；抗炎症剤(例えば、トラネキサム酸、チオタウリン、ヒポタウリン等)等が挙げられる。

【0056】

本発明のメーキャップ化粧料は採り得る製品形態は特に限定されず、例えば、化粧下地、ファンデーション、白粉、頬紅、口紅、マスカラ、アイシャドー、アイライナー等の製品形態を採り得る。

【0057】

【実施例】

次に本発明を実施例によりさらに詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。配合量は重量%である。まず始めに各実施例及び比較例で採用した試験法、評価法を説明する。

【0058】

「肌上でののびの軽さ」

使用中肌上でののびの軽さを、専門パネラー10名により実使用試験を実施した。評価基準は以下の通りである。

...専門パネラー8名以上が、使用中肌上でののびが軽いと認めた。

...専門パネラー6名以上8名未満が、使用中肌上でののびが軽いと認めた。

...専門パネラー3名以上6名未満が、使用中肌上でののびが軽いと認めた。

× ...専門パネラー3名未満が、使用中肌上でののびが軽いと認めた。

【0059】

「肌への密着性(フィット感)」

使用後肌への密着性(フィット感)を、専門パネラー10名により実使用試験を実施した。評価基準は以下の通りである。

...専門パネラー8名以上が、使用後肌への密着性(フィット感)があると認めた。

...専門パネラー6名以上8名未満が、使用後肌への密着性(フィット感)があると認めた。

。

...専門パネラー3名以上6名未満が、使用後肌への密着性(フィット感)があると認めた。

。

× ...専門パネラー3名未満が、使用後肌への密着性(フィット感)があると認めた。

【0060】

「化粧崩れのなさ(化粧もち効果)」

使用後化粧崩れのなさ(化粧もち効果)を、専門パネラー10名により実使用試験を実施した。評価基準は以下の通りである。

...専門パネラー8名以上が、使用後化粧崩れしない(化粧もちが良い)と認めた。

...専門パネラー6名以上8名未満が、使用後化粧崩れしない(化粧もちが良い)と認めた。

。

...専門パネラー3名以上6名未満が、使用後化粧崩れしない(化粧もちが良い)と認めた。

。

× ...専門パネラー3名未満が、使用後化粧崩れしない(化粧もちが良い)と認めた。

【0061】

10

20

30

40

50

「衣服等への二次付着のなさ（二次付着レス効果）」

使用後衣服等への二次付着のなさ（二次付着レス効果）を、専門パネラー10名により実使用試験を実施した。評価基準は以下の通りである。

... 専門パネラー8名以上が、使用後衣服等への二次付着がないと認めた。

... 専門パネラー6名以上8名未満が、使用後衣服等への二次付着がないと認めた。

... 専門パネラー3名以上6名未満が、使用後衣服等への二次付着がないと認めた。

× ... 専門パネラー3名未満が、使用後衣服等への二次付着がないと認めた。

【0062】

「肌上でのベタツキのなさ」

使用中、及び使用後肌上でのベタツキのなさを、専門パネラー10名により実使用試験を実施した。評価基準は以下の通りである。 10

... 専門パネラー8名以上が、使用中、及び使用後べたつかないと認めた。

... 専門パネラー6名以上8名未満が使用中、及び使用後べたつかないと認めた。

... 専門パネラー3名以上6名未満が使用中、及び使用後べたつかないと認めた。

× ... 専門パネラー3名未満が使用中、及び使用後べたつかないと認めた。

【0063】

実施例1～4、比較例1に示す処方水中油型乳化ファンデーションを、表1に示す1～6を均一に混合し、これに混合粉碎した7～11を加えて均一分散させ、これに加熱溶解した12～23を加えて均一に乳化することにより調製した。そして上記の評価について評価試験を行ない、その結果を「表1」に示した。 20

【0064】

【表1】

配合成分		実施例				比較例
		1	2	3	4	1
1	精製水	残余	残余	残余	残余	残余
2	1、3-ブチレングリコール	4	4	4	4	4
3	グリセリン	2	2	2	2	2
4	ベントナイト	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
5	水酸化カリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
6	トリエタノールアミン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
7	酸化チタン	7	7	7	7	7
8	酸化鉄	2	2	2	2	2
9	タルク	2	2	2	2	2
10	マイカ	1	1	1	1	1
11	窒化ホウ素粉末	5	5	10	10	5
12	パルミチン酸	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
13	ステアリン酸	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
14	モノステアリン酸グリセリン	1	1	1	1	1
15	モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
16	セチルアルコール	2	2	2	2	2
17	流動パラフィン	8	8	8	8	8
18	コハク酸ジエトキシエチル	0.001	0.1	5.0	25.0	—
19	ワセリン	1	1	1	1	1
20	パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	1	1	1	1	1
21	トリイソオクタン酸グリセリン	2	2	2	2	2
22	防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量
23	香料	適量	適量	適量	適量	適量
肌上でののびの軽さ		○	◎	◎	◎	×
肌への密着性		○	◎	◎	◎	×
化粧崩れのなさ		◎	◎	◎	◎	◎
衣服等への二次付着のなさ		◎	◎	◎	◎	△
肌上でのベタツキのなさ		○	◎	◎	○	×

10

20

30

【0065】

参考例5～8、比較例2に示す処方水中油型乳化ファンデーションを、表2に示す1～6を均一に混合し、これに混合粉碎した7～12を加えて均一に分散させ、これに加熱溶解した13～26を加えて均一に乳化することにより調製した。そして上記の評価について評価試験を行ない、その結果を「表2」に示した。

【0066】

【表2】

40

配合成分	参 考 例				比較例
	5	6	7	8	2
1 精製水	残余	残余	残余	残余	残余
2 1、3-ブチレングリコール	4	4	4	4	4
3 グリセリン	2	2	2	2	2
4 ベントナイト	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
5 水酸化カリウム	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
6 トリエタノールアミン	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
7 酸化チタン	7	7	7	7	7
8 酸化鉄	2	2	2	2	2
9 タルク	2	2	2	2	2
10 マイカ	1	1	1	1	1
11 球状ナイロン粉末	—	—	—	—	5
12 窒化ホウ素粉末	5	5	5	5	5
13 パルミチン酸	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
14 ステアリン酸	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
15 モノステアリン酸グリセリン	1	1	1	1	1
16 モノオレイン酸ポリオキシエチレンソルビタン	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
17 セチルアルコール	2	2	2	2	2
18 流動パラフィン	8	8	8	8	8
19 セバシン酸ジエチルカルビトール	0.1	5	—	—	—
20 アジピン酸エチルエトキシエチル	—	—	0.1	5	—
21 テトラオクタン酸ペンタエリスリチル	—	—	—	—	5
22 ワセリン	1	1	1	1	1
23 パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル	1	1	1	1	1
24 トリイソオクタン酸グリセリン	2	2	2	2	2
25 防腐剤	適量	適量	適量	適量	適量
26 香料	適量	適量	適量	適量	適量
肌上でののびの軽さ	○	◎	○	◎	△
肌への密着性	○	◎	○	◎	×
化粧崩れのなさ	◎	◎	◎	◎	×
衣服等への二次付着のなさ	○	◎	○	◎	△
肌上でのベタツキのなさ	◎	◎	◎	◎	△

【0067】

上記の結果から本発明のメーキャップ化粧料はすべての評価項目において優れた効果を有していることが分かる。以下に本発明のその他の実施例を挙げる。

【0068】

[実施例9] 固形パウダリーファンデーション

(1) タルク	15.0	重量%
(2) セリサイト	20.0	
(3) マイカ	10.0	
(4) PMMA球状粉末	1.0	
(5) メチルシロキサン網状重合粉末	1.0	
(6) 窒化ホウ素	9.0	
(7) 二酸化チタン	12.0	
(8) 酸化鉄	6.0	
(9) 雲母チタン	1.5	

10

20

30

40

50

(10) 流動パラフィン	残 余
(11) コハク酸ジエトキシエチル	10.0
(12) セスキオレイン酸ソルビタン	2.0
(13) 防腐剤	適 量
(14) 香料	適 量

(製法及び評価)

1～9の各成分を混合粉碎したところへ、10～14の各成分を混合したものを加えて攪拌混合し、容器に成型して固形パウダリーファンデーションを得た。得られた固形パウダリーファンデーションは、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果が優れていた。

【0069】

10

[実施例10] 油中水型乳化ファンデーション

(1) ナイロン球状粉末	2.0	重量%
(2) 窒化ホウ素	10.0	
(3) シリコーン処理二酸化チタン	10.0	
(4) シリコーン処理酸化鉄	5.0	
(5) シリコーン処理セリサイト	1.0	
(6) シリコーン処理マイカ	1.5	20
(7) 金属セッケン処理タルク	5.5	
(8) 精製水	残 余	
(9) ヒドロキシメトキシベンゾフェノンスルホン酸ナトリウム	3.0	
(10) グリセリン	10.0	
(11) ジプロピレングリコール	5.0	
(12) デカメチルシクロペンタシロキサン	10.0	30
(13) 流動パラフィン	3.0	
(14) メチルフェニルポリシロキサン	1.0	
(15) シリコーン樹脂	5.0	
(16) モノイソステアリン酸ソルビタン	2.0	
(17) コハク酸ジエトキシエチル	4.5	
(18) 防腐剤	適 量	
(19) 香料	適 量	40

(製法及び評価)

12～19の各成分を均一に混合溶解させたものへ、1～7の各成分を混合粉碎したものを加えて分散させた。次に均一に混合攪拌した8～11を加えて乳化し、容器に充填して油中水型乳化ファンデーションを得た。得られた油中水型乳化ファンデーションは、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果が優れていた。

【0070】

[実施例11] 白粉

(1) タルク	残 余	
(2) セリサイト	10.0	重量%
(3) オルガノポリシロキサンエラストマー球状粉末	5.0	
(4) 窒化ホウ素	20.0	
(5) 酸化鉄	3.0	
(6) 炭酸マグネシウム	3.0	10
(7) 球状アルミナ粉末	4.0	
(8) スクワラン	2.0	
(9) トリオクタン酸グリセリン	3.0	
(10) コハク酸ジエトキシエチル	1.5	
(11) セスキオレイン酸ソルピタン	1.0	
(12) 防腐剤	適 量	
(13) 香料	適 量	20

(製法及び評価)

1～7の各成分を混合粉碎したところへ、8～13の各成分を混合したものを加えて混合攪拌し、容器に充填して白粉を得た。得られた白粉は、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果が優れていた。

【0071】

[実施例12] アイシャドー

(1) タルク	残 余	
(2) セリサイト	7.0	重量%
(3) マイカ	15.0	30
(4) 窒化ホウ素	33.0	
(5) 雲母チタン	2.0	
(6) 酸化鉄被覆雲母チタン	1.5	
(7) 酸化鉄	1.5	
(8) スクワラン	2.0	
(9) コハク酸ジエトキシエチル	2.0	40
(10) シリコーン樹脂	1.5	
(11) モノオレイン酸ソルピタン	0.5	
(12) 防腐剤	適 量	
(13) 香料	適 量	

(製法及び評価)

1～7の各成分を混合粉碎したところへ、8～13の各成分を混合したものを加えて攪拌混合し、中皿に成型してアイシャドーを得た。得られたアイシャドーは、使用感触、化粧

もち効果、二次付着防止効果が優れていた。

【0072】

[実施例13] 口紅

	重量%	
(1) カルナバロウ	1.0	
(2) キャンデリラロウ	2.0	
(3) セレシン	10.0	
(4) スクワラン	残余	
(5) トリイソオクタン酸グリセリン	9.0	
(6) ジイソステアリン酸グリセリン	13.0	
(7) コハク酸ジエトキシエチル	5.0	10
(8) シリコーン樹脂	8.0	
(9) ヒドロキシプロピル - シクロデキストリン	1.0	
(10) マカデミアナッツ油脂肪酸コレステリル	3.5	
(11) 合成ケイ酸ナトリウムマグネシウム	0.5	
(12) 疎水性シリカ	0.5	
(13) 精製水	2.0	
(14) 窒化ホウ素	10.0	
(15) 色剤	適量	
(16) 防腐剤	適量	
(17) 香料	適量	20
(製法及び評価)		

60 に加熱した10に11~12を分散させ、これに均一溶解した9と13を加えて十分に攪拌する。別に加熱溶解させておいた1~8に、これを加えて十分攪拌し、さらに14~17を加えて分散攪拌し、その後容器に充填して口紅を得た。得られた口紅は、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果が優れていた。

【0073】

【発明の効果】

本発明によれば、メーキャップ化粧料にコハク酸ジエトキシエチルと窒化ホウ素粉末とを配合すると、使用感触、化粧もち効果、二次付着防止効果に優れたメーキャップ化粧料が提供される。

フロントページの続き

- (72)発明者 鹿子木 宏之
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂 第一リサーチセンター内
- (72)発明者 難波 富幸
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂 第一リサーチセンター内

審査官 大宅 郁治

- (56)参考文献 特開昭50-132134(JP,A)
特開昭55-017310(JP,A)
特開2001-240526(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A61K 8/19-99